

平成26年度 スーパー食育スクール事業 事業結果報告書

都道府県名	新潟県
学校名	村上市立村上小学校
学校のホームページアドレス	http://www.iwafune.ne.jp/~maizuru/

1 取組テーマ

学習意欲の向上を目指す食に関する指導の在り方

2 栄養教諭の配置状況

栄養教諭配置年及び人数	平成23年度より配置	2人（平成26年度）
配置されていない場合の対応状況		

3 推進委員会の構成

委員長	村山 伸子	新潟県立大学人間生活学部健康栄養学科	教授
委員	森泉 哲也	新潟医療福祉大学健康科学部健康スポーツ学科	教授
委員	山口 智子	新潟大学教育学部生活環境学科	准教授
委員	高橋 直史	J A新潟中央会農業対策部	くらしの活動業務リーダー
委員	圓山 玲子	新潟県学校栄養士協議会	会長
(オブザーバー)			
長谷部俊一	村上市立村上小学校	P T A	会長
齋藤 津良	J Aにいがた岩船	営農部営業企画課	課長
佐藤 優樹	村上市農林水産課	農業振興室	主査
神田 正道	公益財団法人新潟県学校給食会	営業課	参事

4 連携機関及び連携内容

連携機関名	連携内容
新潟医療福祉大学	<ul style="list-style-type: none"> ○推進委員会への参画 ○村上小学校の実践支援 <ul style="list-style-type: none"> ・職員研修の講師 ・食育の全体計画、指導計画作成についての指導・助言 ・食育授業の計画、実施についての指導・助言 ・給食の時間における食に関する指導への指導・助言 ○アンケートの作成・分析・評価 ○報告書の作成と研究発表での報告
村上市農林水産課 〔学校給食地場産利用モデル事業実行委員会〕	<ul style="list-style-type: none"> ○地産地消献立メニュー開発 ・学校給食への導入 ・地場産物を活用した給食の時間における食農指導 ・家庭への啓発（リーフレット作成・配付）
J Aにいがた岩船	<ul style="list-style-type: none"> ○資料提供、農業体験や施設見学

5 実践内容

事業目標

学校全体での効果的な食に関する指導の実施による、食習慣の改善と学習意欲の向上

評価指標

※ 研究委託先の大学教授と分析・検証方法を検討し、すべての指標において事前と事後検査を比較することで評価することとし、計画書を一部見直した。なお、ポイントの増減基準については、経験値により算出した。

- ・朝食摂取率（毎日食べる）が事前調査より 2 ポイント増
- ・栄養バランスのとれた朝食摂取率が事前調査より 10 ポイント増
- ・学校給食の残食率が事前調査より 10 ポイント減
- ・学習意欲の高まり（GAMI 数値）が事前調査より 5 ポイント増
- ・学力テストが事前調査より 2 ポイント増 ※偏差値ではなく全国比で比較
- ・地場産物（市内産）の使用割合が昨年度調査より 3 ポイント増

評価方法

- ・大学の作成する児童アンケート、保護者アンケート（事前調査、事後調査の 2 回）
- ・CRT 学力テスト
- ・地場産物の利活用調査

評価指標を向上させるための仮説(道筋)

栄養バランスのとれた朝食を毎日食べる等、望ましい食習慣の形成に向けた食育の授業を、栄養教諭を中心とした教職員全員で計画的に、かつ、教科横断的に実施する。

さらに、以下の 3 点について重点を置き食育を推進する。

- ・毎日、給食の時間に給食を教材とした食に関する指導を全学級で実施する。
- ・学習したことが実践へつながるよう、保護者や地域、生産者と連携した取組や体験学習、交流学习を実施する。
- ・食を身近に感じるような食育環境を整える。

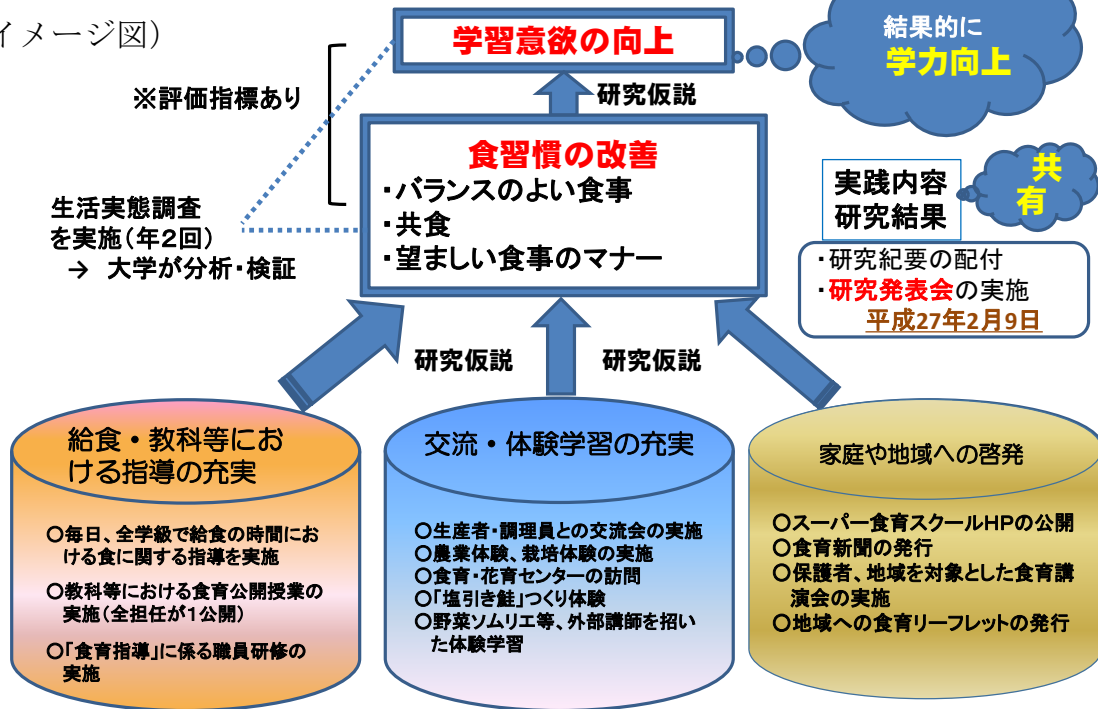
これらの取組により、先行研究で学力との関連が深いとされている「朝食摂取率」等の食習慣が改善され、児童の学習意欲（授業に集中して取り組む等）を示す GAMI 数値が好転するとともに、その副次的効果として学力も向上する。



（仮説）望ましい食習慣が身についた児童は、学習意欲（授業に集中して取り組む等）が高まる。

実践内容

(イメージ図)



○ 給食・教科等における指導の充実

- ・「食育指導」に係る職員研修の実施
- ・毎日、全学級で給食の時間における食に関する指導を実施
- ・教科等における食育公開授業の実施（全担任が1公開）
- ・食育の授業を実施する教科単元別指導計画の作成
- ・学校給食の時間における指導計画の作成



食育授業（道徳）



食育指導職員研修

○ 交流・体験学習の充実

- ・生産者・調理員との交流会の実施
- ・農業体験、栽培体験の実施
- ・食育・花育センターの訪問
- ・「塩引き鮭」づくり体験
- ・野菜ソムリエ等、外部講師を招いた体験学習

※学校給食地場産利用モデル事業

- と連携し、地元食材を取り入れた献立メニューの開発・提供も行う。
- ・食育授業外部講師の活用、生産者、調理員等との交流



給食の時間における食に関する指導



3年 味噌づくり体験



6年 塩引き鮭作り体験

○ 家庭や地域への啓発

- ・スーパー食育スクールHPの公開
- ・食育新聞、体力・健康たよりの発行



5年 野菜ソムリエによる味覚の教室

- ・保護者と児童を対象とした食育講演会の開催
- ・保護者、地域への食育リーフレットの配付



食育講演会 (左) 児童 (右) 保護者



食育リーフレット

○ 実践内容・研究結果の公表

- ・研究発表会の開催による県全体への食育モデルの普及
- ・食育環境整備モデルの紹介



全体会

研究発表会の様子



分科会



公開授業



食育コーナー



食育ルーム

6 成果

「望ましい食習慣が身についた児童は、学習意欲（授業に集中して取り組む等）が高まる」という仮説のもと、食習慣改善に向けた様々な食育の取組を行ってきた。その結果、事前調査より数値が好転した評価指標もあるが、指標に掲げた食習慣については改善されたという結果が統計学的に得られなかった。

よって、本年度は食習慣の改善が学習意欲の向上につながるという仮説の有効性を実証することはできなかった。

しかし、食習慣と学習意欲との関連性を評価・分析していった結果、評価指標に食習慣の構成要素と位置づけた「朝食摂取率」「朝食の食事内容」よりも、「偏食がない」「食事の時に会話する」「共食者がいる」「決まった時刻に寝る・起きる」「排便がある」等の項目に、学習意欲との相関があることがわかった。（☆参照）

これにより、学習意欲の向上を図るために、児童には「苦手な物が出た時の食行動」「楽しく食べることの大切さ」「自律的な家庭生活の確立」に資する食育の取組を行うこと、保護者には「食事の際の会話や共食の意義」について啓発していくことの重要性が明らかになってきた。

今後は、この視点から改善を図る必要のある食習慣・生活習慣を評価指標に据えて食育の取組を行い、「望ましい食習慣が身についた児童は、学習意欲（授業に集中して取り組む等）が高まる」という仮説を検証することで、学力面においても食育が重要であることを実証できると考えられる。

☆【学習意欲と相関が見られた構成要素】

※ r（相関係数：0.2以上は相関が見られる。値が1に近いほど相関関係は高い）

p（有意確率：0.05（5%水準）以下ならば確立的に偶然とは考えにくい）

- 偏食 (11月; $r=.291, p<0.01$)
- 共食 (11月; $r=.199, p<0.05$)
- 食事の時の会話 (7月; $r=.323, p<0.01$ 11月; $r=.240, p<0.01$)
- 生活の自律
 - ・決まった時刻に寝る (7月; $r=.310, p<0.01$ 11月; $r=.319, p<0.01$)
 - ・決まった時刻に起きる (7月; $r=.198, p<0.05$ 11月; $r=.292, p<0.01$)
 - ・排便がある (7月; $r=.224, p<0.05$ 11月; $r=.198, p<0.05$)

7 スーパー食育スクール事業の取組状況の情報発信

- 学校のホームページによる情報発信
- 食育新聞、食育リーフレット、体力・健康たより等による保護者や地域への情報発信
- 食育研究発表会の開催による県内外の学校関係者、保護者への情報発信
- 定期的な公開授業による村上市内教職員への情報発信
- 研究紀要、研究のまとめを全都道府県に送付することによる情報発信
- スーパー食育スクール事業推進委員会の一般公開（新聞による報道）
- 公開授業や体験学習、研究発表会の新聞による報道

8 今後の課題

データ解析は、介入の時期や頻度等がデータに影響するため、アンケートの実施時期が重要となる。今回のアンケートの実施は、1回目が7月1日、2回目が11月7日であり、夏季休業を挟んだ4か月間と短いこと、さらにその間での食に関する指導は計画の50%程度であることなどから、適切であったとは言えない。

多くの報告に示されており、今回の指標にも掲げた「朝食摂取率」「朝食の食事内容」と学習意欲との相関係数の低さ（☆参照）も、アンケートの実施時期の影響を受けていると推測される。

よって、評価指標や取組の視点を再検討する必要があるものの、実質的に1年間の実践を終えた状況での調査結果と26年度の調査結果の比較・検討を行い、仮説の有効性についての最終的な結論を導き出したい。

☆【参考】

- ・朝食摂取率と学習意欲
(7月; $r=.097, p=.294$ 11月; $r=.108, p=.179$) → 相関なし
- ・食事バランスと学習意欲
(7月; $r=.103, p=.292$ 11月; $r=.106, p=.213$) → 相関なし